

Lanté, Louis Marie. Costumes des femmes du pays de Caux, et de plusieurs autres parties de l'ancienne province de Normandie. Paris, chez l'editeur, 1827. 44p. 105 plates (copper. hand-col.) 33.6×26.5cm <383, 135-L>

Hiler p. 526 Colas 1770~1773 Lipp. 1196

コーとは、セーヌ河北部一帯をさす地方名で、別名をコーショワーズ (Cauchoise) ともいった。ノルマンディ州の北東部であるが、それに若干のフランス革命前におけるノルマンディ州の女子服を含んで、105枚からなる銅版手彩色の服装図集である。そのほとんどの原画者がランテであり、刻版と手彩色は M.ガティーヌ (M. Gatine) が担当している。Colas の書誌によると、1811年から翌年にかけての最初の11枚だけが、パリのジュルナル・デ・ダームから1814年に出版され、ほかに1885年にも105枚が、また1925年から1926年にかけて同様105枚が再刊されている。これを見てもわかるように、ランテの作品は抜群に優れており、1枚1枚が名作になっている。

とりわけ、この地方の丈高いレースのかぶり物は、今でも世界的に著名で、それがこの地方の民族服の象徴になっているが、本書にはエンパイア様式期のそれが、様々な形で登場してくるので見ているのも楽しい。これらは専らランテが1819年にノルマンディに旅行した際のスケッチが土台になっている。

コー地方やノルマンディに、なぜこうした独特のレースの丈高いかぶり物が残っているのかについて、本書のまえがきは、十字軍遠征の際、シリアから持ち帰ったのが始まりで、すでに1325年、英王チャールズ4世に嫁したフランスのイザベルを描いたフロワサールの写本の細密画に基づいたモンフォコンの『君主制フランスの記念碑』Bernard de Montfaucon, *Monuments de la monarchie française*, 1729-33にもこの丈高いかぶり物が描かれているし、マイヨー (M. Malliot) の『昔の市民や軍人の服装、習俗、宗教上の慣習に関する調査』1804年 (17) の第3巻132頁にもこのシリア風のかぶり物が描かれている、ということを描している。

ランテは元来風景画家で1789年生まれ、没年は不詳であるがボードワイエに師事し、1824年から1838年までのサロンに水彩画を出品している。また1817年以來『ジュルナル・デ・ダーム・エ・デ・モード』誌 (99) のプレート原画も担当している。

ランテの著名な作品集には、他に『フランス著名女性肖像図鑑』*Galerie française de femmes célèbres par leur talents, leur rang ou leur beauté*, 1827 <383, 135-L> 『パリの上流及び中流階層女性の服飾と髪型』*Costumes et coiffures de Paris des haute et moyenne classes*, ca 1830 などがあり、いずれも精密な描写を特徴にしている。(石山)